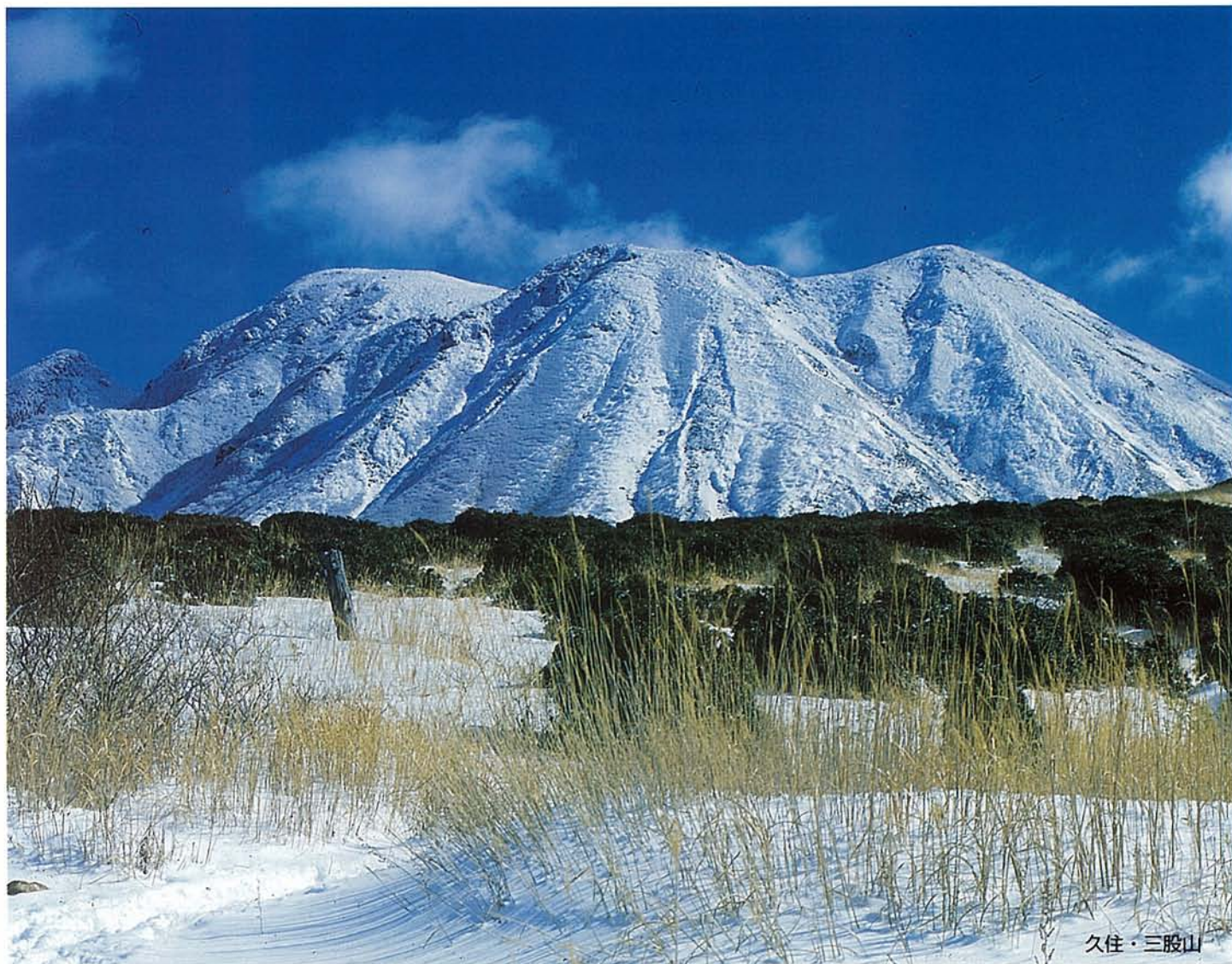


— セント・ルカ産婦人科 —

ルカ新聞

 No.9
 2004.7.


久住・三股山

向日葵

— 群衆はイエスの周りに押し寄せた。ときに12年以上出血が止まらず、医者に全財産を使い果たした女がいた。この女がイエスに近寄って後ろからそっとイエスの服の房に触れると直ちに出血が止まった。イエスは「私に触れたのは誰か」といわれた。弟子は「群衆があなたをとりまいて押し合っているのです。」といったが、イエスは「私から力が出て行ったのを感じた」といわれた。女は隠しきれず、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由と、その結果たたちに癒されたことを皆の前で話した。イエスは「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心しなさい」といわれた。

— ルカによる福音書 8章 43-48節

この女性は今まで絶望的な毎日を送っていたのでしよう。あの有名なイエス様がお出でになる。このチャンス逃すことはできない。治療していただきたいけれど機れの身体であり、みんなの前で言えない。そこで「イエス様の服に触るだけでも」と信じ、祈りながらお近づき触れたのでしよう。するとたちちに癒された。女性は驚いたでしよう。今までの医者も治療できなかった出血がイエス様の服の房に触れただけで治ったのですから。そしてそのお力の偉大さに恐れおののき、また自分がコソッとイエス様の力を盗んだ重大さにも驚いたものと思います。このように本当に自分の希望が強ければ、周りの状況がどうあれ、行動に示すものです。これも一つの勇気でしょう。さあ不妊治療の保険適用に向けて行動を起こしましょう。幸いなことにFINEの会が活動を始めました。この会に参加し、自分たちの医療を受ける権利を守りましょう。イエス様はきっと「あなたの信念があなたを救った。安心しなさい」といってその行動を祝福してくださるでしょう。

2004年2月27日読売新聞の「論点」に「生殖医療の光と影—次世代見据えた政策を」というタイトルで
国立成育医療センター総長・松尾宣武氏の意見が載りました。

氏曰く：—子供の出生数は減少し続けている中、未熟児の出生数は増加している。この原因の一つは不妊治療により未熟児の割合が増え、その結果、新生児集中治療室(NICU)のベッドが足りなくなっている。しかもこの子供らの長期予後は楽観視できない。NICU退院後、子供とその家族は厳しい現実と直面するであろう。子供の成長・発達・行動障害が深くかかわると見られる虐待やいじめ、社会不適応などの問題は未解決のまま次世代に先送りされる。それであるにもかかわらず政府は少子化対策の一環として生殖補助医療推進策ともとれる不妊医療への公費投入を決定した。これによって未熟児数はいっそうの増加を示し我国の新生児医療は危機的状況に陥るであろう。さらに又、生殖補助医療の持つリスクは多胎妊娠に限らない。先天異常、染色体異常、成長障害など多様な問題を含む。最も危惧されるのが不妊の世代間連鎖である。不妊原因遺伝子の伝達、低出生体重時に固有の不妊リスク、染色体異常など多様なメカニズムを介して親世代の不妊が子供世代に伝えられ、子供が生殖年齢に達したときゆえなく苦悩するであろう。このような「そのときよし」の少子化対策が見直され真の政策が実施されることを望む。——というものでした。

この記事を読んだとき、全く信じられない気持ちでした。その日のうちに反論を書き、読売新聞と日本産婦人科学会、日本不妊学会、日本受精着床学会の理事の先生方に送りました。その結果、下に述べるように3月8日に私の意見が同じ読売新聞に掲載されました。

——松尾宣武・国立成育医療センター総長の意見は全く実情を理解していないもので、日本の成育医療という重要なポストにある方がこのような認識であることにショックを受けた。まず「不妊治療によって未熟児が増え、NICUが足りなくなる」との指摘だがこれは不妊治療が原因ではなく、さまざまな出産条件の変化によって起こることが予測されなければならない結果であると言いたい。私の資料では不妊外来の初診時年齢は25年前は28歳であったが今や30歳を超えた。結婚年齢の上昇によると思われ、この結果、中年女性に特有な子宮筋腫や子宮内膜症、さらにはクラミジア感染症などが増加し、妊娠しにくくなってきている。また男性も25年前は精子の異常率は35%であったが現在は64%と倍増している。これらの原因はストレスや環境、生活スタイルの変化などいくつも考えられる。要するに現在、将来とも妊娠しにくくなってきている。そのようなカップルに何とか赤ちゃんが授かるように治療がなされる。そして妊娠すれば当然上記のような疾患を伴ったハイリスク妊娠、分娩になりやすいのである。また、松尾氏は「不妊治療によって異常児が増加する」と言っているが事実は全く逆である。我々は毎年日本産婦人科学会に生殖医療の臨床実施報告を行い、3年遅れで集計が発表されているが、異常児の発生率は自然妊娠に比べ、低い。毎年各国からの報告でも低い(通常、自然妊娠では異常児は5%前後、それに対して当院の統計では2.7%である)。これは不妊治療では良質の卵子、精子、良好な環境で妊娠に導くことが理由と考えられる。また松尾氏は「不妊形質を子供に継承する」とも言っている。確かに一部にそのような遺伝子異常があるが、それではその子供は「異常」なのか。その子はその母親、父親と同じ正常な人ではないのか。またそのような理由で「治療を拒否」ということは優劣思想に基づく「差別」ではないのか。今後とも不妊症が増加しハイリスク妊娠、分娩が増えるであろう。不妊治療を社会的にも経済的にも援助し、また、周産期センター、NICUを早急に増設することが必要なのである。——

このように世間は不妊治療に対して冷たいものです。まったく理解していません。国立成育医療センターは日本の成育医療のモデルとなる病院です。その総長がこのような認識です。ましてや不妊症でない一般の人々もほとんど事実を知りません。そのような一般人がこの総長の意見を見たとき、不妊症の患者さんに対してどのように思うでしょう。そこでまず、私たちは行動しなければなりません。

今、JISART(全国ARTの600施設のうち、主だった14施設のグループ)では患者さんの自助グループ「Fineの会」の活動を支援しています。同じ患者さんでもある松本亜樹子さんが中心となり、「不妊治療の保険適用を実現する会」の中川歩さんらも参加しています。患者さん自身が行動を起こさねばなりません。国は一般の患者さんの意見なら真剣に聞いてくれます。

- 世間の実情は冷たいものです。ここでFineの会に入って一緒に行動を起こしましょう。
薬害エイズの患者さんが立ち上がって自分たちの実情を訴え、権利を勝ち得たように。

＊ 看護部だより ＊

不妊症患者から見た非配偶者間生殖補助医療

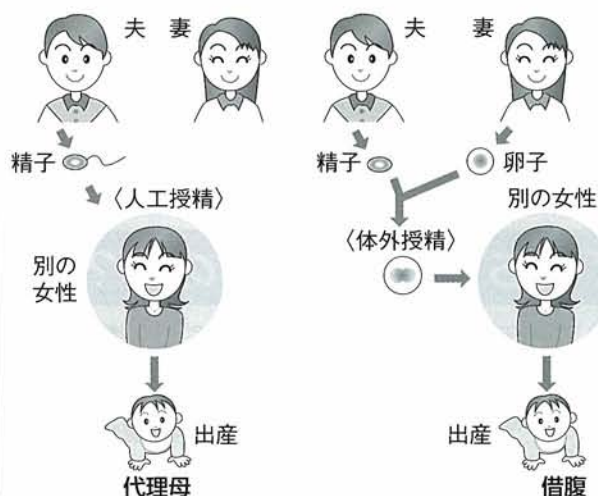
看護部 柴田 令子

今回は、皆さんに協力していただいた倫理に関するアンケートの結果と、1994年におこなった調査の結果を比較しましたので、報告いたします。

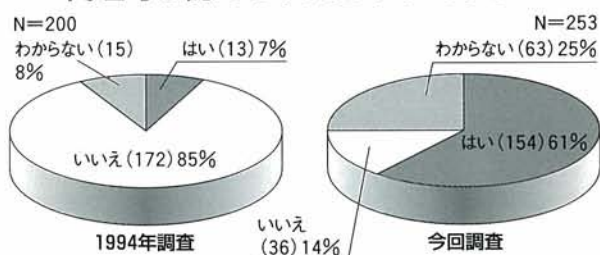
代理懐胎については、認めるという意見が前回の調査に比べ大幅に増え、反対に認めないと言う人は、激減しています。胚提供についても、否定的な意見の割合は前回の半分となっています。

しかし、代理懐胎を実際に受けたいか、という現実問題になると、肯定的な意見は2、3割程度に留まりました。

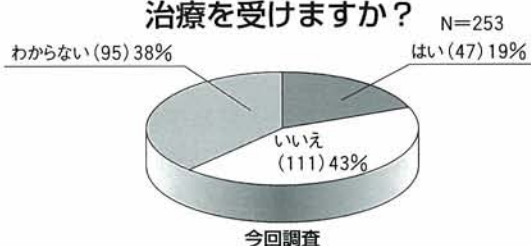
代理懐胎の種類とその方法



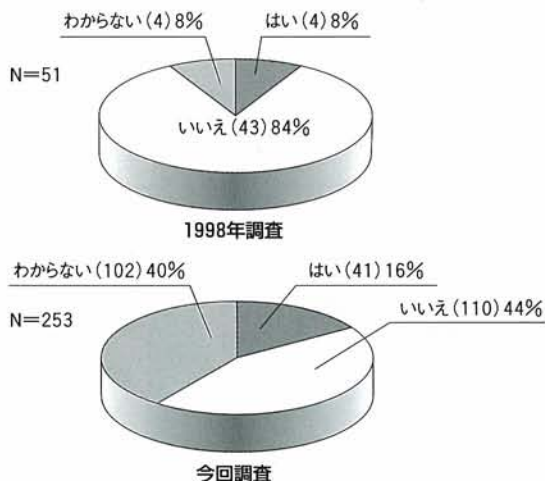
代理母が認められたらよいですか？



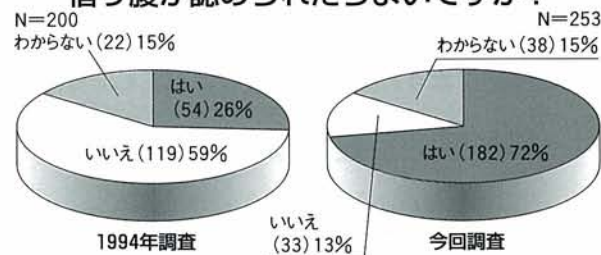
治療を受けますか？



ドネーション(胚提供)を受けますか？



借り腹が認められたらよいですか？



治療を受けますか？



(まとめ)

最近マスコミなどでは、タレントの向井亜紀さんの件を始めとして、倫理に関することがセンセーショナルに報道されており、世間の風潮と共に意識もかなり変化したと思われます。しかしその反面、患者さん達は、現実問題としてしっかりこの問題と向き合っているんだなということを感じました。

研究室だより

日本哺乳動物卵子学会 学術奨励賞受賞

この新聞でも当院の研究内容を時々紹介していますが、その中で体外受精で受精できない原因をしらべた

「体外受精における非受精卵の前核形成阻害の解析」

が第45回日本哺乳動物卵子学会、臨床部門の学術奨励賞を受賞しました（公文麻美）。

この結果が患者さんのためになるように、ますます研究に力を入れていきたいと思ひます。



公文 麻美 (胚培養士) 野田洋一先生 (学会会長) 荒木康久先生 (御指導頂いた先生)

体外受精、3個以上胚をもどしちゃいけないの??

大津 英子

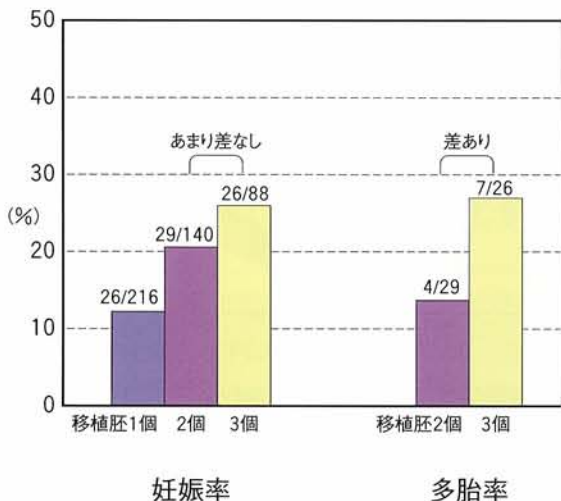
時々、患者さんから3個以上胚を子宮に戻したいという相談を受けることがあります。2個戻しても平均妊娠率が20～30%であることを考えると、3個4個に戻したいと思うのは自然の心理だと思います。しかし、実際は、3個以上の胚を戻しても妊娠率はあまり上がらず、多胎妊娠率が上昇してしまうのです。

多胎妊娠は、母体に負担がかかるだけでなく、下のグラフのように赤ちゃんが低体重児で生まれてくる可能性がとても高くなります。最近の未熟児に対する医療技術の向上により、重篤な異常こそ少なくなりましたが、様々な病気にかかりやすいなど多くのリスクを負うこととなります。もちろん、リスクは高いものの双胎・品胎（三つ子）でもほとんどの場合が健康に生まれてきますが、それでも育児負担は想像を超えるものだといひます。

妊娠することがゴールではありません。このような理由から、当院では原則2個（年齢・治療歴・胚の質により3個の場合もあります）を子宮に戻すことにしています。

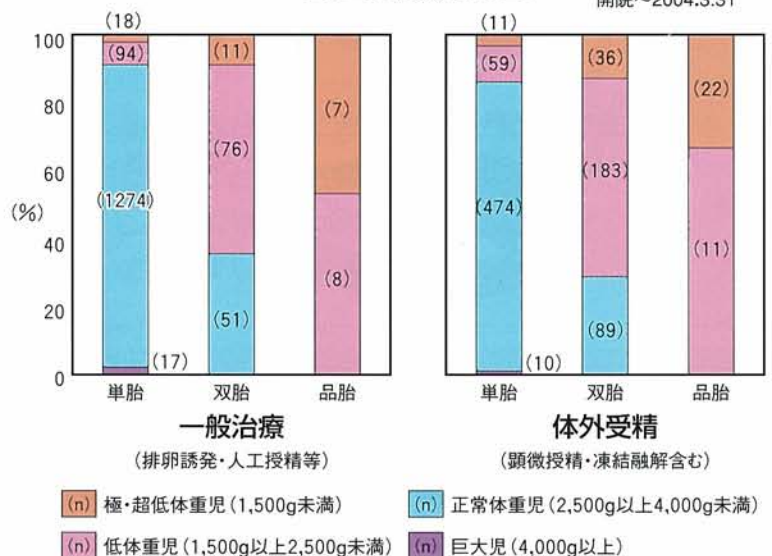
移植胚数別妊娠率と多胎率

良好胚だけ移植した場合（1995年統計）



出生児数別体重

N=2451
開院～2004.3.31



セント・ルカ セミナー開催

2004年3月7日セント・ルカ生殖医療研究所で
第11回のセミナーが行われました。
今回は心理的な面を中心に講演をして頂きました。

- ① 「当院の取り組み 私のカウンセリング」
セント・ルカ産婦人科 心理士：上野 桂子 先生
- ② 「日本における生殖心理カウンセリングの現状と課題」
日本生殖医療心理カウンセリング研究会副代表世話人
東京HARTクリニック 臨床心理士：平山 史朗 先生
- ③ 「女性生殖機能障害における心理要因の医療人類学的考察」
日本生殖医療心理カウンセリング研究会代表世話人
東邦大学 医学部教授：久保 春海 先生
- ④ 「A systematic review of psychosocial interventions
in infertility」
School of Psychology, Cardiff University : U.K.
Jacky Boivin 先生
- ⑤ 当院で治療経験のある元患者さんのお話
M・Mさん と M・Nさん
- ⑥ 総合ディスカッション
コメンテーター 大分大学医学部 教授：宮川 勇生 先生

▶ 平山先生



◀ 久保先生



▲ Boivin先生

▼ 集合写真



とても勉強に
なりました



心理相談室より

上野 桂子

- | | |
|-----------|-----------|
| ● 外来の相談係 | 随 時 |
| ● なんでも相談 | 随 時 |
| | 主に毎週土曜日午後 |
| | 予約制 |
| ● 心 理 相 談 | 毎週火・土の午前中 |
| | 予約制 |

早いもので今年も半年が終わろうとしています。皆様、お元気ですか？

当院に心理相談室が設置されてから、3年が過ぎました。この間、多くの患者さんのお話をうかがわせていただきました。また、看護部と一緒になんとか患者さん方の悩みや不安をより深く理解し、患者さん方が少しでも苦痛が少なく、納得しながら治療を受けていただけるよう努力してまいりました。そのために色々な質問紙調査に多くの方にご協力いただいています。本当にありがとうございます。スタッフ一同、その結果を真摯に受け止め、日々、患者さんとのふれあいに生かしていきたいと思っております。



セント・ルカ セミナーで講演中の上野先生

また、今年は当院のルカセミナーにおいて、日本の不妊カウンセラーの草分けとも言える平山史朗先生、ヨーロッパ不妊学会のJ. Boivin先生、日本生殖医療心理カウンセリング研究会代表世話人、東邦大学医学部教授の久保春海先生に講演をしていただきました。

「子どもを持つことの意味」「家族のありかた」「自分たちの行き方」などということ夫婦をよく考えて、そのことを踏まえたうえで不妊治療をどのように位置づけていくかを捉えていくことが重要であるとのことでした。

そのために迷った時、悩んだ時、つらい時、誰かに話を聴いて欲しい時、どんなときでも結構です、スタッフに声をおかけください。少しでもお役にたつことができれば幸いです。

心理相談室では他では言えないどんなことでも大丈夫。ここでは「常識」は必要ありません。

悩んでいるのはあなた一人ではありません。一緒に歩いていきましょう。



2004年、世界の不妊カウンセラーの組織世界不妊カウンセリング協会（IICO）が発足し、モンリオールで第一回大会が開催されました。日本から3施設の心理士が参加しました。当院でも院長先生のご理解の下、記念すべきこの大会に院長先生以下4名で参加させていただきました。今後の患者さんのサポートに活かしていきたいと思っています。

受付より

みなさん、こんにちは。

先日、受付3人は研究室、情報処理室の職員と一緒に玄関のお花の植え替えをしました。

みなさん見て頂けましたでしょうか？

お花は年2回、春と秋に植え替えます。買ってきたお花は新しい根を生やすため、下3分の1の土は捨てます。そして肥料を混ぜた土に植えます。今回は400キロの土に肥料を混ぜました！お花屋さんには負けません!!私達の腕はプロ級です!!!

今玄関には、ペチュニア・アメリカンブルー・ケイトウ・インパチェンスなど・・・たくさんのお花が咲いていると思います。きれいなお花を見てみなさんの心が少しでも癒されてくれたらいいなと思います。秋のお花も頑張りますので、みなさん楽しみにしててくださいね。

(受付・越名)



NEW職員紹介



看護部
河野 絢子

2月に就職して、あっという間に5ヶ月たちました。産婦人科は初めてで、毎日が勉強という感じです。業務にも少し慣れ、最近夜勤には入れる用になりました。以前の病院とは、全く違う分野ですが、日々学びながら頑張りたいと思います。



看護部
工藤 美子

分からないことばかりですが、患者さんと一緒に勉強していきたいと思います。がんばります。



看護部
門屋英子

4月から不妊治療の勉強をしたくて、海を渡ってやって来ました。渡り鳥にならないように地につけて行きたいです。年のいった新人ですが、若者に負けないパワーと根性で頑張ります。



研究室
那須 恵

4月から、こちらで働かせてもらうことになりました。早く一人前になれるよう、精一杯努力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



情報処理室
平松 里美

初めてのことばかりで、わからない事も多いですが、はやく仕事を覚えられるように頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。



2004年 前期を振り返って

| | | | |
|-------|--|-------|---|
| 01.05 | 新年会(セント・ルカ多目的ホール) | 05.08 | 第18回「赤ちゃん ～今ならきつと授かる～」講座 (大分・トナリ会館) 参加者 72名 講師 (院長, おがに泌尿器科医院 緒方俊一先生) 参加者 佐藤順, 工藤由, 渡邊, 那須, 平井, 篠田, 門屋, 工藤美, 河野, 恵良, 江藤, 赤嶺, 指山, 上野 |
| 01.11 | 日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会 (東京) 参加 (上野, 院長) | 05.15 | 第45回日本哺乳動物卵子学会 (滋賀) 発表 (佐藤千, 公文, 熊泊) 参加 (院長) 「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は高い体外成熟能を有する」(佐藤千賀子) 「体外受精における非受精卵の核形成阻害の解析」(公文麻美) 日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞演題 胚培養士セッション「顕微授精の適応について」 座長 (院長, 国際医療福祉大学・臨床医学センター 柳田 薫先生) 「当院のICSI適応基準と妊娠困難例に対する新しい試み」(セント・ルカ産婦人科 熊泊陽子) |
| 01.17 | 第17回「赤ちゃん ～今ならきつと授かる～」講座 (大分・ホテルくれべ大分) 参加者 32名 講師 (院長) 参加者 佐藤順, 工藤由, 越名, 佐藤品, 江藤, 篠田, 赤嶺, 原井, 指山 | 05.20 | 株式会社 HOKS (ISO9001取得企業・大分) 見学 参加 (平松, 工藤由, 梅田, 那須, 城戸, 平井, 大津, 長木, 渡邊, 門屋, 品矢, 原井, 柴田, 指山) |
| 01.24 | 第82回体外受精教室 参加者 59名 参加 (佐藤順, 熊泊, 足立, 関, 指山) | 05.22 | クリーンルームへバフィルター交換 |
| 01.24 | 第1回第1期・第2期合同オリブの会 参加者10名 | 05.23 | The First Postgraduate Course Presented by IICO: "Global Perspectives on Infertility Counseling" (CANADA Montreal) 参加 (熊泊, 上野, 院長) |
| 01.31 | 日研シンポジウム (北海道) 参加 (院長) | 05.23 | IFFS 18th World Congress on Fertility and Sterility (CANADA Montreal) 発表 (熊泊, 上野) 参加 (院長) 「Successful pregnancy following a safety vitrification method using a straw container to prevent infections in pronuclear embryos」(熊泊陽子) 「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients in Japan」(上野桂子) |
| 02.03 | 新職員 河野純子さん (看護部) | 05.28 | 竹内レディースクリニックにて PGD 研修 (鹿児島) 参加 (佐藤品, 大津) |
| 02.15 | 第1回日本生殖医療心理カウンセリング研究会学術集会 (東京) 発表 (上野) 参加 (渡邊, 長木, 柴田, 指山, 院長) ワークショップ「私のカウンセリング」座長 (院長, 津田大学教授 金城清子先生) 「私のカウンセリング」(セント・ルカ産婦人科 上野桂子先生) | 05.29 | 卵巣に関する国際カンファレンス (東京) 発表 (佐藤千, 公文) 参加 (院長) 「Human cumulus-oocyte complexes (COCs) recovered from follicles containing high level of E2 have a high in vitro maturation competence」(佐藤千賀子) 「Analysis of the maleale nuclear characters from unfertilized human oocytes in vitro」(公文麻美) |
| 02.21 | 第6回第2期オリブの会 参加者4名 | 06.05 | 第3回第1期・第2期合同オリブの会 参加者6名 |
| 02.24 | 第83回大分周産期研究会 (大分) 発表 (江藤) 参加 (佐藤順, 工藤由, 梅田, 渡邊, 大津, 足立, 篠田, 松元, 関, 二宮, 赤嶺, 齊高, 河野, 恵良, 越光, 品矢, 原井, 柴田, 指山, 上野, 院長) 「不妊患者から見た非配偶者周産期補償医療」(江藤貴美) | 06.05 | 第86回体外受精教室 参加者37名 参加 (平松, 佐藤順, 那須, 熊泊, 門屋, 河野, 足立, 篠田, 関) |
| 02.28 | 第83回体外受精教室 参加者46名 参加 (公文, 河野, 足立, 関) | 06.07 | 第1回 ISO9001委員会会議 |
| 02.28 | 第21回ガーネットサークル OG 1名, 参加者4名 | 06.08 | 第84回周産期研究会 発表 (恵良郁絵) 参加 (平松, 佐藤順, 工藤由, 梅田, 篠田, 松元, 門屋, 工藤美, 赤嶺, 恵良, 齊高, 原井, 柴田, 上野, 院長) 「治療別出生児の所見」(恵良郁絵) |
| 03.01 | 新職員 工藤美子さん (看護部) | 06.09 | 日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞祝賀会 (大分) |
| 03.07 | 第11回セント・ルカセミナー 講師 Jacky Boivin 先生 (School of Psychology, Cardiff University, U.K.) 「A systematic review of psychosocial interventions in infertility」 座長 久保 春海 先生 (東邦大学医学部教授) 講師 久保 春海 先生 (東邦大学医学部教授) 「女性生殖機能障害における心理要因の医療人類学的考察」 座長 宮川 勇生 先生 (大分大学医学部教授) 講師 平山 史朗 先生 (東京 HART クリニック 臨床心理士) 「日本における生殖心理カウンセリングの現状と課題」 講師 上野 桂子 先生 (セント・ルカ産婦人科 心理士) 「当院の取組み わたしのカウンセリング」 講師 当院で治療経験のある元患者さん M.Mさん, M.Nさん The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility (沖縄・万国津梁館) 発表 (公文, 平井, 齊高, 上野) 参加 (院長) 「Successful pregnancy following safe vitrification method using a straw container to prevent infections in pronuclear embryos」(公文麻美) 「Transfer of embryos vitrified and thawed under the logics of synchronicity between the embryo development and the implantation window」(平井香里) 「How can we support infertility couples?」(齊高美奈) 「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients」(上野桂子) SESSION9 「Reproductive Psychiatry」Chair (Dr. Takafumi Utsunomiya, Dr. Jacky Boivin School of Psychology, Cardiff University, U.K.) 「Does stress have an adverse effect on IVF outcome?」(Dr. Jacky Boivin, U.K.) | | |
| 03.08 | The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility ブース展示 (沖縄) 参加 (佐藤順, 工藤由) | 06.09 | 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導 扶養薬品工業株式会社 中澤 照喜先生 ご来院・ご指導 |
| 03.13 | 日本生殖医療標準化機関 (JISART) ミーティング (東京) 参加 (院長) | 06.12 | Serono Symposia International 2004 (東京) 参加 (江藤, 平井, 長木, 原井, 上野, 院長) SESSION 5 「The Embryo」Chair (Dr. Takafumi Utsunomiya, Dr. Kaoru Yanagida) |
| 03.15 | Microsoft SECURE SYSTEM Training for IT Pro #1 (大分) 参加 (工藤由) | 06.14 | JISART ラボラトリーディレクター研修会 (東京) 参加 (平井, 長木) |
| 03.22 | 広島大学 島田昌之先生ご来院・ご指導 | 06.14 | 第2回 ISO9001委員会会議 |
| 03.26 | 平成15年度医療安全研修会 (大分県医師会会館) 参加 (長木, 柴田, 指山) | 06.16 | 第3回 ISO9001委員会会議 |
| 03.27 | 第2回第1期・第2期合同オリブの会 参加者9名 | 06.18 | 医療機関におけるISO9001活用セミナー (東京) 参加者 (梅田, 城戸) |
| 03.27 | 衆議院議員へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施 (478通) | 06.19 | 第1回新患講座 参加者 34名 参加 (平松, 佐藤順, 那須, 長木, 篠田, 江藤, 赤嶺) |
| 03.27 | 第84回体外受精教室 参加者17名 参加 (城戸, 工藤美, 河野, 足立, 指山) | 06.19 | 第22回ガーネットサークル OG 1名, 参加者5名 |
| 03.27 | セント・ルカ産婦人科&メディック・ルカ合同お花見 (大分・裏川公園) | 06.23 | 第4回 ISO9001委員会会議 |
| 03.28 | 第2回大谷産婦人科セミナー (神戸) 参加 (佐藤品, 大津) | 06.26 | 大分内視鏡外科手術研究会 発表 (院長) 「不妊症を主とした開腹術後-2nd-look laparoscopy について」(院長) |
| 03.29 | 古賀総合病院 (宮崎) 長山由佳先生 院内見学のためご来院 | | |
| 04.01 | 新職員 平松里美さん (情報処理室), 那須恵さん (研究室), 門屋英子さん (看護部) | | |
| 04.01 | 参議院議員へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施 (246通) | | |
| 04.02 | 第19回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝謝話会 (大分) 参加 (平松, 佐藤順, 梅田, 越名, 渡邊, 佐藤千, 佐藤品, 城戸, 那須, 大津, 熊泊, 長木, 松元, 篠田, 河野, 恵良, 工藤い, 越光, 江藤, 柴田, 指山) 「免疫の立場からみた習慣流産」(富山医科大学産科婦人科 齋藤滋先生) 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導 | | |
| 04.05 | EOG 環境測定 X線漏洩検査 | | |
| 04.08 | 不妊九州第61回日本不妊学会九州支部会 発表 (佐藤千, 公文, 江藤, 上野) 参加 (院長) 「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は高い体外成熟能を有する」(佐藤千賀子) 「体外受精における非受精卵の解析」(公文麻美) 「ART 周期の各時期におけるストレスの変化」(江藤貴美) 「ART 周期における不妊患者の心理的ストレスとその影響要因について」(上野桂子) | | |
| 04.19 | Microsoft SECURE SYSTEM Training for IT Pro #2 (大分) 参加 (佐藤順, 工藤由) | | |
| 04.23 | 第3回 不妊治療の保険適用署名運動 不妊治療施行施設585施設にアンケート送付 | | |
| 04.24 | 第85回体外受精教室 参加者 42名 参加 (平松, 佐藤順, 那須, 門屋, 河野, 工藤美, 齊高, 関) | | |

著書
 (院長) 「胚の凍結保存」『産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療』(永井書店)
 「2PN 胚・胚盤胞期胚の安全な Vitrification 法と胚移植」
 「生殖医療のコツと落とし穴」(中山書店)
 「不妊患者への精神的サポート・カウンセリングの方法」『生殖医療のコツと落とし穴』(中山書店)
 「胚の凍結保存」『産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療』(永井書店)
 「培養液」『生命誕生に向けて-生殖補助医療胚培養士講習会テキスト-』(日本哺乳動物卵子学会)
 「ART と経済的負担」『産婦人科の世界56巻9号 特集 生殖医療が直面する倫理課題』(医学の世界社)
 「胚移植の方法 (新鮮胚, 凍結胚)」『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)
 「卵子・胚凍結-急速凍結法-Straw ②」『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)

論文
 (熊泊陽子) 「A Prospective, Randomized Study: Day 3 versus Hatching Blastocyst Stage」Hum.Reprod. (Volume19 Number7, 1598-1603, 2004)
 「How many times should we try ART?」Hum.Reprod. (投稿中)
 「Transfer of Embryos Vitrified and Thawed by Ascertain Synchronicity between Embryonic Development and Endometrial Maturity to Determine the Implantation Window」Hum.Reprod. (投稿中)
 (熊泊陽子) 「感染防止のためストローを用いた前核期胚 vitrification 法による妊娠成功について」臨床婦人科産科 (Vol.57, No.12 1576-1579, 2003)
 「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen」J Assist Reprod Genet (投稿中)
 (大津英子) 「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in invitro fertilization」Fertil.Steril. (Vol.81, No.3 pp723-724, March 2004)
 (公文麻美) 「感染に対して安全な vitrification 法のマウス前核期胚における検討」臨床婦人科産科 (Vol.57, No.12 1571-1575, 2003)
 「A Vitrification Method by Means of a Straw to Prevent Infections in Mouse Pronuclear Embryos」J. Mamm. Ova Res. (Vol.20, 124-128, 2003)

妊娠報告件数

(2003.12.1~2004.6.30)

体外受精、顕微授精等

87件

*

その他(体外受精以外)

92件

計 179件

編集後記

今年の前半は、2月の「第一回日本生殖医療心理カウンセリング研究会学術集会」に始まり、3月「ルカセミナー」と沖縄での国際学会「環太平洋不妊学会」、4月「日本不妊学会九州支部会」、5月「Montreal」で開催された「IICO-IFFS」、6月「セローノシンポジウム」と、大きな学会や研究会がたくさんありました。当院からも院長先生始めスタッフも毎回数名ずつ参加させていただき、生殖医療における世界の最先端の研究に触れる機会を持つことができました。学んだことを生かし、一人でも多くの患者さんのために役立てていきたいと思ひます。

それにしても、Montrealの学会の帰りに見たナイアガラの滝の雄大ですばらしかったこと!自然の偉大さに感激しました。(K.U)

